

貝沢井ノ貝戸遺跡2

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2023

高崎市教育委員会
株式会社ティーティーエー
有限会社毛野考古学研究所

貝沢井ノ貝戸遺跡2

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2023

高崎市教育委員会
株式会社ティーティーエー
有限会社毛野考古学研究所

例 言

1. 本書は、宅地造成工事に伴う貝沢井ノ貝戸遺跡第2次調査の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市貝沢町字井ノ貝戸2074番1ほかに所在している。
3. 本調査は、株式会社ティーティーエー・高崎市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、株式会社ティーティーエーに負担して頂いた。
5. 発掘調査～整理作業は、戀河内昭彦・松本喜臣（有限会社毛野考古学研究所）が担当し、遺構測量は田村貴広（有限会社毛野考古学研究所）、空撮は小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
6. 発掘調査は令和5年1月5日～1月16日、整理作業は令和5年1月17日～令和5年5月31日の期間で実施した。
7. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「859」である。
8. 本書の執筆については、Iを滝澤匡（高崎市教育委員会）、それ以外の執筆と編集を松本が行った。
9. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。（順不同・敬称略）

【発掘調査】

新井一史 新井友巳 丸山和幸

【整理調査】

山口昌子

11. 調査にあたっては、地元住民の皆様にご協力頂いた。記して感謝申し上げます。

凡 例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面水準標高は海拔標高を示す。座標値は世界測地系に基づいている。
2. 遺構図の縮尺は、平面図：1/60、断面図：1/40、遺物実測図の縮尺は1/3である。
3. 遺構覆土および土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修2006）に従っている。
4. 本書掲載の第1図は高崎市発行1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第2図は国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小にしたものを、第3図は国土地理院発行1/25,000『高崎』を、第8図は（財）日本地図センター発行『明治前期測量 2万分の1フランス式彩色地図』群馬県高崎市・藤岡市北部・多野郡吉井町北部地区 902を編集して使用した。
5. 挿表中の数値表記において、〈 〉は残存値を示す。
6. 本書ではテフラ（火山噴出物）の呼称として次の略号を用いる。
As-A：浅間A軽石（天明3年〔1783年降下〕）
As-B：浅間B軽石（嘉承3・天仁元年〔1108年降下〕）

目 次

例言・凡例・目次	
I 調査に至る経緯	1
II 地理的・歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	4
IV 基本層序	4
V 検出された遺構と遺物	5
1. 水田跡	5
2. 溝	5
3. 井戸	7
VI まとめ	8
写真図版	
抄録・奥付	

図版目次

第1図 調査区域図	1
第2図 遺跡の位置	2
第3図 周辺の遺跡	3
第4図 基本層序	5
第5図 全体図	6
第6図 1号畦畔・1号溝・1号井戸土層断面	7
第7図 1号井戸出土遺物	8
第8図 迅速図における遺跡の位置	8

表目次

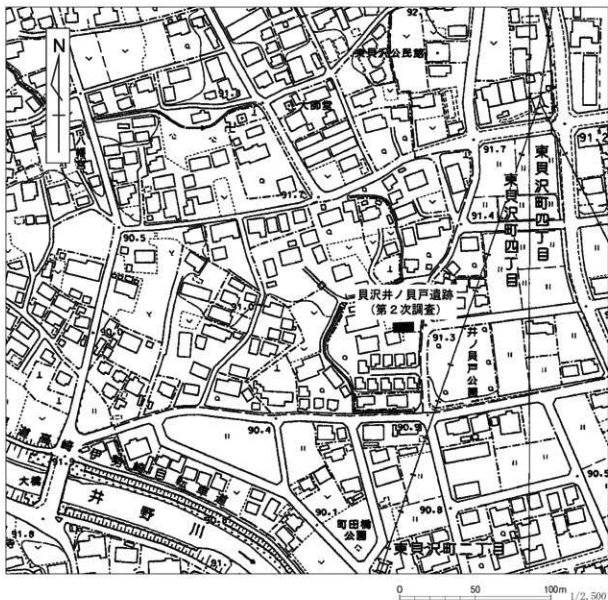
第1表 1号井戸出土遺物観察表	8
-----------------	---

写真図版目次

P L. 1	調査区遠景	1号溝全景
	調査区全景	2号溝全景
P L. 2	1号畦畔全景	1号井戸全景
	1号畦畔近景	基本層序D
	1号畦畔土層断面	1号井戸出土遺物

I 調査に至る経緯

令和4年8月中旬、事業者から高崎市貝沢町において計画している宅地造成工事に先立ち、埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、工事に際し協議が必要の旨、回答した。令和4年9月14日、市教委に試掘確認調査依頼書が提出され、同年10月11日に試掘確認調査を実施した。その結果、古代の水田跡を確認した。この結果を踏まえ、開発者と市教委とで遺跡の保存に係る協議を行ったが、現状保存は困難との結果となり、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。遺跡名は「貝沢井ノ貝戸遺跡第2次」とし、発掘調査は、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に順じ、令和4年12月1日、事業者・有限会社毛野考古学研究所との間で契約締結を行い、調査指導監督は市教委が実施することとなった。

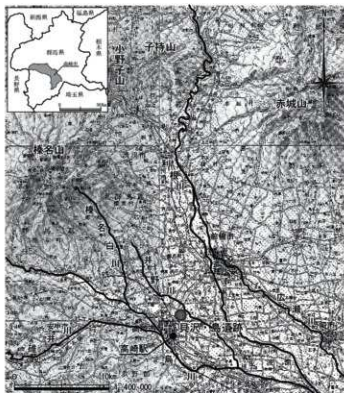


第1図 調査区域図

II 地理的・歴史的環境

地理的環境

貝沢井ノ貝戸遺跡2は、群馬県高崎市貝沢町字井ノ貝戸に所在する。高崎市域の地形を概観すると、市北部には榛名山の山体崩落に伴うと考えられている陣場岩層なだれ(15,000～16,000年前)を起源とする相馬ヶ原扇状地が形成されている。その南方には浅間山の山体崩落に伴う応桑岩層なだれ(23,000～24,000年前)を起源とした前橋泥流を基盤とする前橋台地が形成されている。同台地の西側には箱型の谷地形を呈する井野川低地帯が井野川沿いに広がる。井野川低地帯は前橋泥流を基盤とし、井野川泥流(10,000～11,000年前)に伴う堆積物により形成された段丘および谷底平野からなる地形面である。また井野川低地帯と烏川に挟まれた地域は高崎台地と呼称されている。



第2図 遺跡の位置

本遺跡は井野川低地帯を南東流する井野川の左岸に位置し、その標高は約92mを測る。明治前期の迅速図を見ると本遺跡は小規模な微高地と低地の境界付近に位置しており、周囲の微高地には集落が点在し、低地には広く水田が広がっていることがわかる。ただし現在の遺跡地の周辺は市街地化しており、自然地形の把握は困難な状況にある。

歴史的環境

平安時代

本遺跡(1)周辺ではA s-B層下の水田跡の調査が多く行われている。大八木換地分遺跡(12)、大八木水田遺跡(16)、貝沢・島遺跡(17)、貝沢・天神遺跡(18)、天田・川押遺跡(22)などの調査事例から井野川右岸の広い範囲において水田開発が行われていたことが推測される。大八木水田遺跡では大畦畔や水路が検出されており、条里制による地割りの一端を知ることができる。一方、井野川左岸でも日高遺跡(2)、中尾村前遺跡(3)、小八木遺跡(7)、小八木葺貝戸遺跡(8)、矢ノ上遺跡(9)、井野屋敷前遺跡(13)、井野・天水遺跡(14)、井野屋敷添遺跡(15)などでA s-B層下の水田跡が確認されている。本遺跡の北方約7kmに位置する井野屋敷添遺跡では条里制に伴う大畦畔が確認されており注目される。

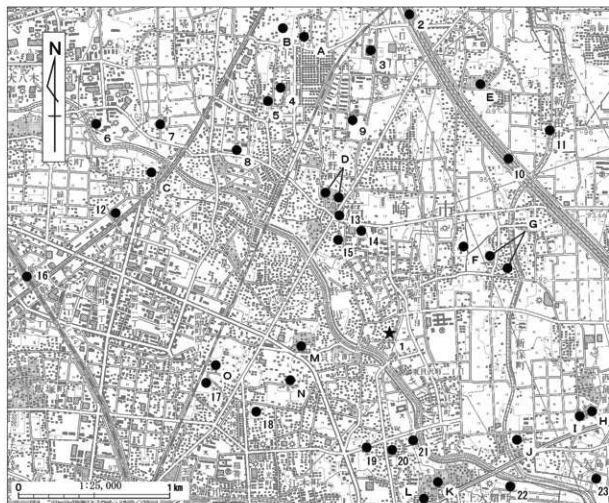
集落跡は井野川低地帯の微高地上に位置する、井野高縄遺跡(4)、井野高縄遺跡2(5)、大八木寺東遺跡(6)、新保遺跡(10)、新保田中村前遺跡(11)、貝沢柳町遺跡(19)、上大類薬師遺跡(20)、上大類薬師遺跡2(21)、天田・川押遺跡、矢島町村西・増殿遺跡(23)で確認されている。特に新保遺跡では大規模

な集落跡が確認されており、生産域との関わりが想定される。

中世・近世

本遺跡地周辺では中世～近世に帰属する水田跡が僅かながら確認されている。日高遺跡では中世の水田跡や溜池跡のほか、近世に帰属すると考えられる水田に伴う畦畔や溝と伴に長軸方位がそれらに平行ないし直行する土坑群が確認されている。なお同遺跡では平安時代に帰属する水田の畦畔が近世の溝および現況の水田の畦畔とほぼ一致していることが判明している。平安時代の地割りが現代まで踏襲されていることが明らかになったことは特筆される。

『新編高崎市史資料編3』によれば、井野川兩岸の自然堤防上や井野川低地帯の微高地には多数の中世屋敷跡が確認されている。本遺跡の位置する井野川左岸では井野環濠遺構（D）、日高下環濠遺構群（F）、諏訪環濠集落（G）、山王屋敷（H）、猿田屋敷（I）がある。また、井野川右岸では貝沢東新井屋敷（M）、塚越屋敷（N）、貝沢八幡屋敷（O）などがある。



1. 貝沢井ノ貝戸遺跡 2. 日高遺跡 3. 中尾村南遺跡 4. 井野高瀬遺跡 5. 井野高瀬遺跡 2 6. 大八木寺東遺跡 7. 小八木遺跡 8. 小八木五貝戸遺跡 9. 矢ノ上遺跡 10. 新保遺跡 11. 新保田中村南遺跡 12. 大八木橋地分遺跡 13. 井野屋敷田遺跡 14. 井野・天水遺跡 15. 井野屋敷田遺跡 16. 大八木水田遺跡 17. 貝沢・高遺跡 18. 貝沢・天神遺跡 19. 貝沢柳町遺跡 20. 上大瀬屋敷遺跡 21. 上大瀬屋敷遺跡 2 22. 天田・川押遺跡 23. 矢島町村西・南瀬遺跡
A. 環濠遺構 B. 小八木新井屋敷 C. 貝沢八幡屋敷 D. 井野環濠遺構 E. 日高下環濠遺構群 F. 日高下環濠遺構群 G. 諏訪環濠集落 H. 山王屋敷 I. 猿田遺跡 J. 下新保環濠遺構群 K. 上大瀬新井屋敷 L. 長井屋敷 M. 貝沢東新井屋敷 N. 塚越屋敷 O. 貝沢八幡屋敷

第3図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査の方法と経過

調査の方法

現地調査では、表土掘削を0.25㎡バックホーを用いて行った。その後人力による遺構検出および遺構掘削を行った。確認された遺構は全て調査区外に範囲がおよぶため、埋没状態の観察を調査区壁面で行った。図面・写真による記録は各調査段階で適宜行った。遺構断面図は縮尺1/20を基本として基準点からの測り込みおよび写真測量で行った。平面図についてはトータルステーションを用いた。写真撮影には35mm白黒ネガ・35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ(1,200万画素)を用いた。空撮はドローン(DJI Mavic2 Pro)を用いて撮影した。

整理調査は、第1次原因を作成した後、修正を行い第2次原因を作成した。出土遺物は洗浄・注記を行った。遺物写真はデジタル一眼レフカメラ(Nikon D850)で撮影した。遺構図・遺物実測図のトレース・編集はAdobe Illustrator CS2、写真加工はAdobe Photoshop CS6を使用した。

調査の経過

現地での発掘調査は令和5年1月5日～1月16日、整理調査は令和5年1月17日～5月31日の期間で実施した。

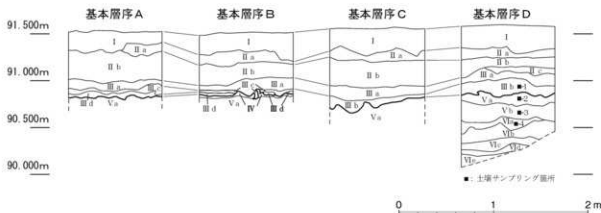
【発掘調査】 1月5日：重機の搬入。仮設トイレの設置。安全対策を講じる。1月6日：重機による表土掘削を開始し、同日中に終了。1月7日：重機の搬出。1月10日：基準点の設置。人力による遺構検出作業を開始する。1月12日：高崎市教育委員会による現地調査終了確認が実施される。1月13日：ドローンによる空撮を実施する。仮設トイレの汲み取りを行う。1月16日：仮設トイレおよび安全柵・看板等の撤去を行う。現地での作業を全て終了する。

【整理調査】 1月期：遺物の洗浄・注記、第1次原因作成を実施する。2月期：遺構図面の修正および第2次原因を作成する。3月期：遺物写真撮影および実測、遺構原稿の執筆を行う。4月期：報告書編集作業を行う。5月期：報告書原稿の入稿・校正を行う。報告書の印刷・製本を行い刊行する。

Ⅳ 基本層序

基本層序は4地点で観察した(第4・6図)。Ⅰ層は表土で現代遺物を含む。Ⅱ層はAs-A混土層である。As-Aの含有量や他の含有物の有無によってⅡa～Ⅱcの3層に細分される。Ⅲ層はAs-B混土層である。Ⅱ層と同様にⅢa～Ⅲdの4層に細分される。このうちⅢd層はAs-Bの含有量が特に多くほぼ軽石のみで構成されている。Ⅱ・Ⅲ層ともに一次堆積を確認することができなかったことから水田耕作や畑作などの理由により攪拌されたものと考えられる。Ⅳ層は黒褐色粘質土で本層位が遺構確認面となる。調査で検出された畦畔は本層位をもって構築されていた。Ⅴ層は白色粒子と斑鉄の付着が多量に認められる黒褐色粘質土である。Ⅵ層は灰白色を基調としたシルト層で井野川泥流堆積物に比定される。本層位も含有物の相違からⅥa～Ⅵeの5層に細分される。最下層のⅥe層ではⅥa～Ⅵd層には認められなかった白色粒の含有が認められた。

なお、今回の調査ではプラント・オパール分析は実施できなかったが、基本層序Dにおいて土壌のサンプリングを行っているため第4図に位置を示す。



- I層 暗褐色土 (10YR3/3) : 表土。しまりあり粘性ない。河原石や現代遺物が混入。
 II a層 暗褐色土 (10YR3/3) : As-A混入土。しまりあり粘性ない。As-A多量。
 II b層 暗褐色土 (10YR3/3) : As-A混入土。しまりあり粘性ややめる。As-A中量。
 II c層 黒褐色土 (10YR3/2) : As-A混入土。しまりややあり粘性ない。炭化物微量。As-A中量。
 III a層 暗褐色土 (10YR3/3) : As-B混入土。しまりあり粘性ややめる。As-B多量。
 III b層 暗褐色土 (10YR3/3) : As-B混入土。しまりややあり粘性ややめる。As-B多量。
 III c層 暗褐色土 (10YR3/3) : As-B混入土。しまりややあり粘性ない。As-B多量。
 III d層 灰黄褐色土 (10YR6/2) : As-B混入土。しまりややあり粘性ない。As-B少量。
 IV層 黒褐色土 (10YR3/1) : 粘質土。しまりあり粘性強い。遺構確認跡。
 V a層 黒褐色土 (10YR3/2) : 粘質土。しまりあり粘性ある。白色粒微量。重鉄少量。
 V b層 黒褐色土 (10YR3/2) : 粘質土。しまりあり粘性ある。白色粒・重鉄多量。
 VI a層 灰白色土 (10YR7/1) : 粘質土。しまりあり粘性ある。黒褐色土ブロック多量。鉄分沈着。
 VI b層 灰白色土 (10YR7/1) : シルト質。しまりあり粘性ややめる。黒褐色土ブロック中量。鉄分沈着。
 VI c層 褐色土 (10YR5/1) : 細砂。しまりややあり粘性ややめる。黒褐色土ブロック中量。鉄分沈着。
 VI d層 灰白色土 (2.5Y7/1) : シルト質。しまりややあり粘性ややめる。黒褐色土ブロック少量。鉄分沈着。
 VI e層 灰白色土 (2.5Y7/1) : シルト質。しまりややあり粘性ややめる。黒褐色土ブロック少量。白色粒多量。鉄分沈着。

第4図 基本層序

V 検出された遺構と遺物

1. 水田跡

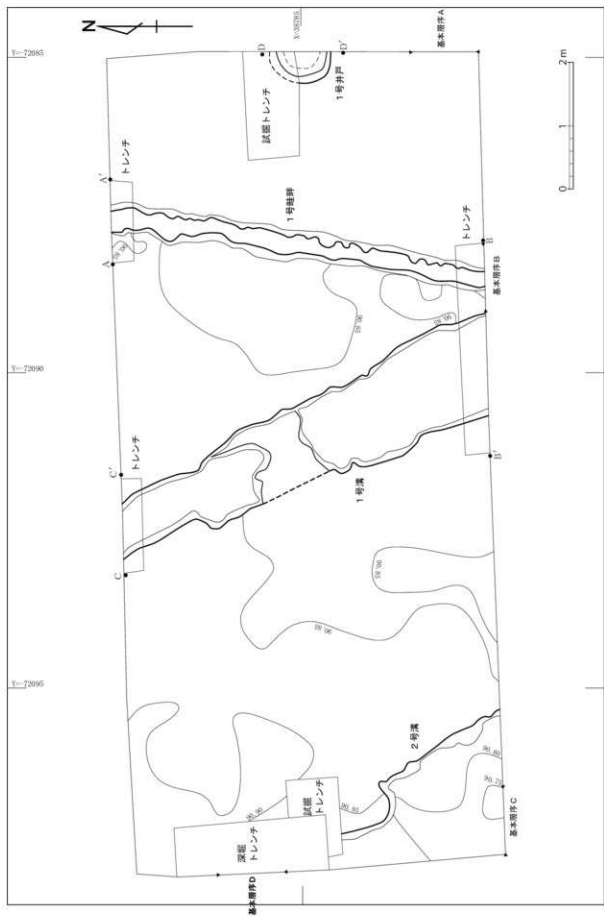
As-B混土層下の水田跡 (第5・6図/PL. 2)

地形 : 標高は北東から南西に向かって僅かに減じ、比高差は0.09 mを測る。**重複** : 1号井戸および1・2号溝と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。**畦畔の走行方向と区画** : 南北方向に走行する畦畔(1号畦畔)が1条検出された。走行方向はN-9°-Eである。幅は下端部で0.35~0.48 m、高さは基底部より0.01~0.03 mを測る。畦畔基部のみの検出であり遺存状態は不良であった。この1号畦畔により東西2区画に区切られることが想定されるものの、調査区が狭小であったことから全容は不明である。**水口** : 検出されなかった。**検出面の状態** : 検出された黒褐色粘質土上面(基本層序IV層)では多数の凹凸が認められた。これらの凹凸に規則性は認められず、工具による掘削痕や足跡などの検出には至っていない。**遺物** : 出土しなかった。**時期** : 遺物の出土が認められなかったことから詳細な帰属時期については不明である。ただし、畦畔の基部が検出されたIV層直上の層(III c層)ではAs-Bを大量に含み、As-Aは含まれないことからAs-B降下以降~As-A降下以前の期間に帰属するものと考えられる。

2. 溝

1号溝 (第5・6図/PL. 2)

位置 : 調査区中央に位置する。**検出状態** : 北西-南東方向に走行する。やや不整形な平面形状を呈し、底面には凹凸が認められた。IV層を削平している状況が認められることから水田跡より新しい。**断面形状** : レン



第5図 全体図

ズ状を呈する。規模：上端幅 0.79～1.76 m、下端幅 0.63～1.59 m、深度 0.04～0.10 mを測る。走行方向：N-27°-W。遺構埋没状態：人為埋没の可能性が考慮される。A s-Bと黒褐色粘質土ブロックを多量に含む。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状況からA s-B降下以降～A s-A降下以前に帰属するものと考えられる。備考：遺構の検出状態から区画を目的とした溝の可能性が考えられる。

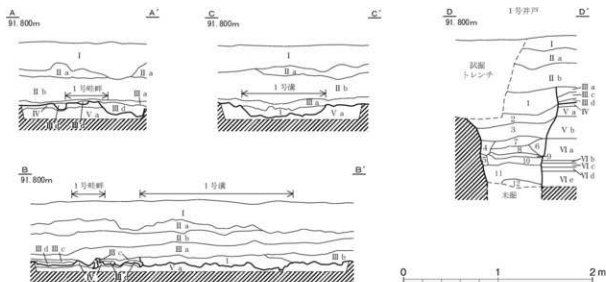
2号溝（第4・5図／PL. 2）

位置：調査区南西端に位置する。検出状態：大半が調査区外に範囲がおよぶ。検出された範囲のみで考慮すると北東-南西方向に走行しているものと想定される。調査範囲が僅かであるため言及できないが調査区西側に位置する井野川に向かう地形の変化点により生じた落ち込みの可能性も想定される（第4図基本層序CにおけるV a層に認められる落ち込み）。断面形状：不明。規模：上端幅・下端幅については不明、深度は検出された範囲においては0.02～0.14 mを測る。走行方向：N-32°-W。遺構埋没状態：自然埋没か。III b層が堆積する。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状況からA s-B降下以降～A s-A降下以前に帰属するものと考えられる。備考：本痕跡の性格は不明であるが、便宜上2号溝として扱った。

3. 井戸

1号井戸（第5～7図／第1表／PL. 2）

位置：調査区東端部中央に位置する。検出状態：1/2ほどが調査区外に範囲がおよぶ。重複：IV層を掘り込んでいることから水田跡より新しい。平面形態：円形と想定される。断面形状：漏斗状を呈する。規模：検出された範囲から想定すると上端規模は0.98 mと想定される。なお、安全面を考慮し確認面から0.98 mの深度まで掘削した時点で調査を中止した。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。調査範囲における下層ではA s-Bを含んだ褐灰色土が、上層ではA s-Aを含んだ褐灰色土が堆積していた。遺物：埋没土中より内耳鍋口縁部片と拳大の円礫(安山岩)が出土した。時期：底面まで掘削していないため詳細は不明であるが、A s-B混入土で構成されるIII層を掘り込んでいることから、III層堆積後に開削されたものと考えられる。



第6図 1号畦畔・1号溝・1号井戸土層断面

土層断面B（1号溝群・1号溝）・土層断面C（1号溝）

1 黒褐色土（10YR3/2）：しまりあり粘性やややゆる。黒褐色粘質土ブロック少量。
As-B少量、1号溝埋土。

土層断面D（1号井戸）

- 1 にぶい黄褐色土（10YR4/3）：しまりあり粘性ある。赤色粘粒少量。As-A少量。
- 2 褐色土（10YR4/1）：しまりややあり粘性ややゆる。As-A少量。
- 3 灰黄褐色土（10YR4/2）：しまりややあり粘性ややゆる。As-A少量。
- 4 褐色土（10YR5/1）：しまりややあり粘性ややゆる。黒褐色粘質土ブロック多量。
As-A少量。

5 褐色土（10YR5/1）：しまりあり粘性ややゆる。黒褐色粘質土ブロック・As-A少量。

6 褐色土（10YR5/1）：しまりややあり粘性ややゆる。As-A少量。

7 褐色土（10YR5/1）：しまりなく粘性ある。As-A少量。

8 褐色土（10YR5/1）：しまりややあり粘性ややゆる。黄褐色粘・As-A少量。

9 にぶい黄褐色土（10YR7/3）：しまりあり粘性なし。As-B少量。

10 褐色土（10YR5/1）：しまりあり粘性ある。白色土ブロック・鉄分少量。As-B少量。

11 褐色土（10YR4/1）：しまりあり粘性ある。鉄分少量。As-B少量。

12 褐色土（10YR3/1）：しまりあり粘性ある。As-B少量。



第7図 1号井戸出土遺物

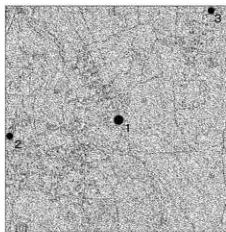
第1表 1号井戸出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①地成 ②色調 (内/外)	③胎土 ④残存	成・製形法の特徴	備考
1	鉄質陶器 内耳鍋	口径 底径 器高 (3.9)	①普通 ②灰色 ④口縁部破片	③白色粘、黒色粘	ロタロ製肌、 外面：凹型ナデ、 内面：凹型ナデ。	外面に痕付着。

VI まとめ

今回の調査ではAs-B混入土層（Ⅲ層）下における水田の痕跡、区画を目的としたと考えられる溝（1号溝）、Ⅲ層を掘り込んだ井戸（1号井戸）が確認された。これらの遺構は切り合い関係および層位的な検討を踏まえるとAs-B混入土層下の水田→1号溝→1号井戸の順に新しく推移するといった変遷が考えられる。ここでは周辺遺跡の調査事例を概観し、本遺跡地における土地利用の変遷について検討したい。

本遺跡周辺ではAs-B一次堆積層に被覆された水田跡の調査事例が多く認められる。今回の調査では確認することができなかったが当地においてもAs-B降下以前から水田耕作が行われていたことは想像に難くない。後出する1号溝は調査区外に範囲がおよぶため言及はできないが、その走行方向を勘案すると前述の水田跡で検出された1号畦畔を削平することが想定される。このことは前代の土地区画を改変して土地利用を行った可能性を示すものと考えられる。1号井戸は今回の調査では最も新しい時期に帰属する遺構である。明治前期の迅速図に本遺跡および周辺に所在する屋敷跡の位置を重ねると集落域に立地することがわかる（第8図）。貝沢東荒井屋敷（2）、日高下隈漆遺跡群（3）はともに戦国期の屋敷跡とされている（高崎市市史編纂委員会 1996『新編高崎市史』資料編3 中世1）。このことは、明治前期に集落域であった箇所は戦国期にはすでに集落域として機能していたことを示唆している。本遺跡近在ではこれまでの所、屋敷跡は確認されていないが1号井戸より出土した内耳鍋片など生活用具に関わる遺物の出土を鑑みると集落域に伴う井戸であった可能性が考慮される。今回の調査結果は、古代において生産域であった箇所が開発や土地の改変とともに一部は集落域へと変遷したことを示すものといえる。



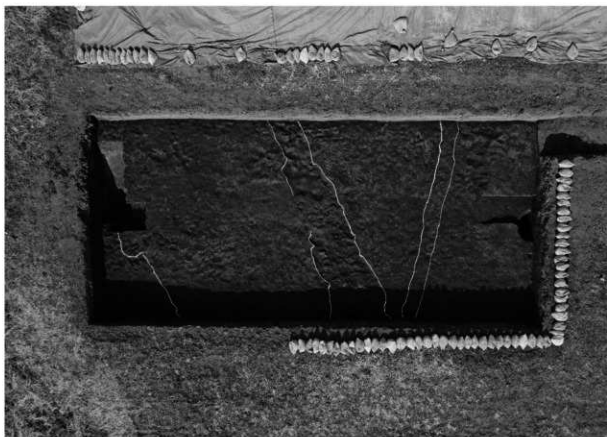
1. 貝沢井ノ戸遺跡 2. 貝沢東新屋敷 3. 日高下隈漆遺跡群

第8図 迅速図における遺跡の位置
(20,000分の1)

写 真 图 版



調査区遠景（南東から）



調査区全景（上が北）



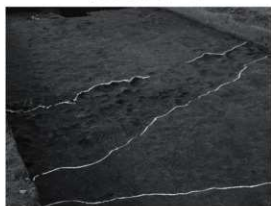
1号畦畔全景（北東から）



1号畦畔近景（北から）



1号畦畔土層断面（南から）



1号溝全景（南東から）



2号溝全景（東から）



1号井戸全景（西から）



基本層序D（東から）



1号井戸出土遺物

報告書抄録

フリガナ	カイザワイノカイドイセキ2
書名	貝沢井ノ貝戸遺跡2
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第492集
編著者名	滝澤匡 戀河内昭彦 松本喜臣
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 ☎027-265-1804
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行年月日	令和5年5月31日

所収遺跡名	所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
貝沢井ノ貝戸遺跡2	群馬県高崎市 貝沢町字井ノ戸 貝戸2074番1 ほか	102020	859	36° 20' 48"	139° 01' 48"	20230105 ～ 20230116	78 m ²	宅地造成 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
貝沢井ノ貝戸遺跡2	水田跡	中世～近世	水田跡 1面 溝 2条 井戸 1基	軟質陶器	As-B混入土層下層より水田の痕跡を検出。

高崎市文化財調査報告書 第492集

貝沢井ノ貝戸遺跡2

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

令和5年5月24日印刷

令和5年5月31日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／有限会社毛野考古学研究所
印刷／朝日印刷工業株式会社